

堀尾輝久さん

(2013年～2014年のウィキペディアより)

勝田守一の「国民の教育権」論、宗像誠也の内外事項区分論を継承し、それらを発展させつつ、コンドルセ Condorcet1743-94ら、近代初期の教育思想に、幸徳秋水やホブソンなどの先駆的な「帝国主義」に関する論など国家論・社会論を接続して、その現代的再構成を試みた。現代公教育を、支配者階級による被支配者階級の

「教化 indoctrination」システムと定位し、近代における教育拡大（教育の機会均等・義務教育の普及など）を批判的に把握した。

一般に、近代の教育組織が複線型（dual system）としてとらえられるのに対して、近代教育の三重構造『教育入門』（p24～p45）『現代教育の思想と構造』（p6～p8、同時代ライブラリーp6～8）を指摘した。また『現代教育の思想と構造』第一部 第2章 四（p135～、同時代ライブラリーp147～）では、「政治的文盲」（p139、同時代ライブラリーp150）について分析して、政治化の時代における非政治的民衆の創出というパラドックス、デモクラシー下におけるデモクラシーの空洞化について論じた。

その一方、「人権としての教育」を思想的に練磨し、その「私事の組織化＝親義務の共同化」としての公教育、すなわち、その機能から「德育 education」を排し、それを「知育 instruction」に限定される公教育モデルを提唱した。その思想は、「国民の教育権」論として知られた。

堀尾の理論は、家永教科書裁判における原告家永三郎に勝訴をもたらした、東京地裁判決（1971年7月17日、通称杉本判決）に、理論的基礎を提供した。

堀尾は国際的な「子どもの権利」に関わる経緯を積極的に主張している。1924年 Declaration of the rights of the Child in Geneva「ジュネーブ子どもの権利宣言」。1948年 Universal Declaration of Human Rights「世界人権宣言」。1959年 Declaration of the Rights of the Child「子どもの権利宣言」。1966年 Convention of Human Rights「国際人権規約」。1985年ユネスコ「学習権宣言」「ユネスコ学習権宣言」。1989年 Convention on the Rights of the Child「子どもの権利条約」。

堀尾の理論への批判としては、教育行政学者の持田栄一による、教育の「私事性」の持つイデオロギー性批判があると言われているが、堀尾が、 Kommunismusに個や私の契機を問うていたことで、いわゆる社会主義に対するイメージがそれぞれ

堀尾と持田では違っていた点を分析する必要があると思われる。(堀尾・持田論争、参考文献:持田栄一編『教育改革への視座』田畑書店、1973年)。

堀尾の思想は、「正義」を貫く「自由」と「平等」を追求した思想と言えるのではないか。フランスのランジュバン・ワロン教育改革を深く研究して正義の原則の思想を深めた。堀尾の正義の原則の探求は、人間とは何か、人間の発達とは何か、人類の発展とは何かという根源的な問いの究明でもあった。未来に開かれた(定義しにくい、先見性を秘めている)堀尾の思想を未来に向かって切り開く若手の出現が望まれている。

略歴

- 1933年1月5日、福岡県の職業軍人の家庭に生まれる。
- 1945年福岡県小倉市立徳力小学校卒業。
- 1948年福岡県立小倉中学校卒業。
- 1951年福岡県立小倉高等学校卒業。
- 1955年東京大学法学部政治コース卒業。
- 1962年同大学院人文科学研究科教育学専攻博士課程修了、「現代教育の思想と構造 近代社会の構造転換と教育思想の変化を中心に」で教育学博士。学部時代は丸山眞男、大学院時代は勝田守一に師事。
- 1962年東京大学教育学部(教養学部併任)専任講師。
- 1965年助教授。
- 1969年7月～1970年7月 パリ大学、ロンドン大学にて研究(文部省在外研究)。
- 1978年教育学部教授。
- 1984年～1988年東京大学評議員。
- 1988年～1990年東大教育学部長・大学院教育学研究科委員長。
- 1990年7月～1991年2月、パリ第五大学にて研究・講義(日本学術振興会)。
- 1993年定年退官、名誉教授、中央大学文学部教授。
- 1994年5月28日 フランスの「教育文化功労賞」(パルム・アカデミック・オフィシエ)受賞。
- 2001年2月～3月 トゥールーズ・ミライユ大学招聘教授。

- 2003年中央大学退職。
- 2006年総合人間学会設立
- 2014年総合人間学会会長
- 日本教育学会会長（1984年～1986年、1992年～1997年）、
- 日本教育法学会会長を、それぞれ2期務める。
- 教育哲学学会、日本教育政策学会、日仏教育学会、日本比較教育学会、日本平和学会、
- 日本学術会議会員（13期1985年～1988年、15期1991年～1994年、16期1995年～1998年）、
- 世界教育学会評議委員。

著書

単著

- 『現代教育の思想と構造—国民の教育権と教育の自由の確立のために—』岩波書店、1971 のち同時代ライブラリー（ただし第三部はない 1992年）
- 『教育の自由と権利 国民の学習権と教師の責務』青木書店 1975年
- 『教育と人間をめぐる対話』新日本出版 1977年
- 『現代日本の教育思想—学習権の思想と「能力主義」批判の視座』青木書店 1979年
- 『教育基本法をどう読むか—教育改革の争点』岩波ブックレット 1985年
- 『教育基本法はどこへ 理想が現実をきり拓く』有斐閣新書 1986年
- 『子どもの権利とはなにか 人権思想の発展のために』岩波ブックレット 1986年
- 『天皇制国家と教育 近代日本教育思想史研究』青木書店、1987年
- 『教育入門』岩波新書 1989年
- 『子どもの発達・子どもの権利 子どもを見る目・育てる目』文民教育協会子どもの文化研究所編 童心社 1989年
- 『日本の教育はどこへ』青木書店 1990年

- 『人間形成と教育 発達教育学への道』岩波書店 1991年
- 『人権としての教育』岩波書店・同時代ライブラリー 1991年
- 『教科書問題～家永訴訟に託すもの』岩波ブックレット 1992年
- 『対話集 教育を支える思想』岩波書店 1993年
- 『日本の教育』東京大学出版会 1994年
- 『現代社会と教育』岩波新書 1997年
- 『いま、教育基本法を読む 歴史・争点・再発見』岩波書店 2002
- 『地球時代の教養と学力～学ぶとは、分かるとは』かもがわ出版 2005年
- 『教育を拓く～教育改革の2つの系譜』青木書店 2005年
- 『教育に強制はなじまない～君が代斉唱予防裁判における法廷証言』大月書店 2006年
- 『子そだて・教育の基本を考える 子どもの最善の利益を軸に』童心社 2007年
- 『人間と教育 堀尾輝久対話集』かもがわ出版 2010年
- 『未来をつくる君たちへ “地球時代”をどう生きるか』清流出版 2011年

共編著

- 『教育法を学ぶ一国民の教育権とはなにか』永井憲一共編 有斐閣選書 1976年
- 『戦後日本の教育改革 第2巻 教育理念』山住正己共著 東京大学出版会 1976年
- 『現代教育学の基礎知識』全2巻 中内敏夫, 吉田章宏共編 有斐閣ブックス 1976年
- 『教育基本法文献選集2 教育の理念と目的 前文, 第一条, 第二条』編学陽書房 1977年
- 『教育と人権』兼子仁共著 岩波書店 1977年
- 『岩波教育小辞典』五十嵐颯、大田堯、山住正己共著 岩波書店 1982年
- 『教育を改革するとはどういうことか』大田堯共著 岩波書店 1985

- 『岩波講座 子どもの発達と教育』大田堯、岡本夏木、坂元忠芳、園原太郎、滝沢武久、波多野誼余夫、村井潤一、山住正己共編、全8巻 岩波書店、1979-80年
- 『岩波の子育てブック幼年期 ゼロ歳から就学まで』編 岩波書店 1986
- 『世界のなかの私たち』西川潤共著 大月書店 1987
- 『シリーズ中学生・高校生の発達と教育』全3巻 太田政男共著 岩波書店 1990
- 『いじめ自殺～子を亡くした親たちのメッセージ』野口清人, 折出健二共著 信州の教育と自治研究所ほか編 かもがわ出版 1998年
- 『平和・人権・環境教育国際資料集』河内徳子共編 青木書店 1998
- 『「日の丸・君が代」と「内心の自由」』右崎正博, 山田敬男共著 新日本出版社 2000
- 『東京都の教員管理の研究』浦野東洋一共編著 同時代社 2002年
- 『今、なぜ変える教育基本法 Q&A』浪本勝年, 石山久男共編著 大月書店 2003年
- 『地域における新自由主義教育改革 学校選択、学力テスト、教育特区』小島喜孝共編 エイデル研究所 2004
- 『日本の教員評価に対するILO・ユネスコ勧告』浦野東洋一共編著 つなん出版 民主教育研究所叢書 2005

翻訳

- ブライアン・サイモン『現代の教育改革ーイギリスと日本』エイデル出版 1987年
- モーリス・ドベス『教育の段階～誕生から青年期まで』斎藤佐和共訳 岩波書店 1982年
- トッド・パール『ピース・ブック』童心社 2007年
- ジェフ・ウィッティアー『教育改革の社会学～市場、公教育、シティズンシップ』久富善之共監訳 東京大学出版会、2004年

外国語への翻訳

- *Educational Thought and Ideology in Modern Japan* —state authority and intellectual freedom edited and translated by Steven Platzer 東京大学出版会 1988年
- 『当代日本教育思想』王智新訳 山西教育出版 1993年
- *L' Education au Japon* edited and translated by J.F. Sabouret Edition CNRS Paris 1993年
- 『全球化時代の教養与学力』人民教育出版社 北京 2008年
- *Valeurs et enjeux de l'education à l'ère planétaire* MESCE 2012年